

JR東海労なごや

2018年9月7日No.1111

JR東海労名古屋地方本部

発行者：荻野隆一

編集者：教宣部

踏切無遮断の申し入れ、業務委員会開催前に またも、別の踏切無しゃ断が発生！

JR東海労名古屋地本は6月30日に、紀勢線亀山～下庄駅間の阿野田踏切において踏切無遮断が発生した事に対して、7月10日に「申3号紀勢線阿野田踏切故障に関する申し入れ」を行ってきました。

地本は会社に対して早急に業務委員会等の開催を要求していますが、今日現在開催されていません。

業務委員会で安全の議論が先送りになっている中、今度は7月31日に名松線権現前～伊勢八太駅間第二片野踏切において列車が接近しているにもかかわらず一度降下したしゃ断桿が再度上昇し列車通過時は、無遮断！運転士は直ちに非常ブレーキを扱うも約100m行き過ぎて停車したという事象が発生しました。幸いにも死傷者は出ませんでした。が、一歩間違えれば重大な事故に繋がる事象でした。

会社の対応は遅い

6月30日の紀勢線の踏切無遮断に対して会社は、原因について「踏切に接近した列車に反応して、しゃ断桿を動作させる制御回路が、一時的に機能しなかったためと考えられるが原因について調査中」としています。

度重なる踏切の異常事態に対して、会社の対応は遅いと言わざるを得ません。

真の原因を早急に明らかに

私たちJR東海労名古屋地本は、今回の事象に対して、8月30日に申7号で申し入れを行いました。原因究明、及び再発防止、そして発見した運転士に表彰することなど、会社に直ちに業務委員会等の開催を要求しました。

安全を脅かす事象に対し中途半端な対応は許されない
JR東海は、徹底的な原因究明と、再発防止を早急に！！